

とびひ(伝染性膿痂疹)

とびひの正式名称は「伝染性膿痂疹(でんせんせいのうかしん)」といいます。細菌が原因の皮膚の感染症で、夏に子どもを中心に流行します。かゆみを伴う水ぶくれが火事の飛び火のようにあっという間に広がることから、「とびひ」と呼ばれています。

★感染経路と症状★

- 虫刺されやあせもをかいてできた傷やケガでできた傷などに、皮膚の表面や鼻の中にいる細菌が入ることで、水ぶくれができ、かゆみを伴います。
- 水ぶくれの中身は細菌の入った液体で、強い感染力があるため、かいてつぶれると、手指を介して、水ぶくれが次々と広がります。



★治療方法など★

- 原因となる細菌を退治するため、抗菌剤を使用します。かゆみがひどい場合は、かゆみ止め薬も使用します。ひどくならないうちに適切な治療を行えば、4～5日で治ります。
- 患部はこすらず、石けんをよく泡立てて、丁寧に洗い、シャワーでよく洗い流し、皮膚を清潔にしたうえで、ガーゼや包帯で覆い、露出させないようにしましょう。



★予防方法★

- 流水と石けんでしっかり手を洗いましょう。
- 引っかかないように爪を短めに切りましょう。
- 鼻の中にはとびひの原因となる細菌が多くいますので、鼻をいじった手で体をかかないようにしましょう。
- 患部を触った手指を介して症状が広がるので、患部をかいたり触ったりしないようにしましょう。
- 症状のある人とタオルを別にし、また、直接肌が触れないようにしましょう。
- 保湿剤などによるスキンケアで肌のバリア機能(※)を高めましょう。
- (※)バリア機能：肌の内側に水分を蓄えて、外からの雑菌やアレルギー物質から体を守る働き

★学校や保育園など★

- とびひにかかってしまったら、ほかの園児や学童に感染させる可能性がありますので、学校や園に連絡しましょう。登校・登園については、医師に相談してください。
- プールの使用については、プールの水で感染することはありませんが、症状を悪化させたり、ほかの人に感染させることもあります。治るまでプールに入るのは控えましょう。

「とびひかな?」と思ったら、すぐに皮膚科を受診しましょう!



★お問合せ先★

○京都市保健福祉局衛生環境研究所 微生物部門
(TEL:075-606-2676 FAX:075-606-2671)

(平成28年7月編集)